

## 地域の会 7/12 発電所見学概要

日 時	平成27年7月12日(日)13時～16時30分
場 所	<p>&lt;安全対策説明 等&gt; ○東京電力（株）柏崎刈羽原子力発電所ビジターズハウス</p> <p>&lt;現地&gt; ○構内 （緊急安全対策車両、荒浜側防潮堤、防潮壁、貯水池、展望台等） ○6号機建屋 （フィルタベント・原子炉建屋・タービン建屋・中央操作室ギャラリー）</p>
参加者	<p>－委員－ （五十音順 敬称略） 池野・石田・桑原・三宮・須田（聖）・武本・中川・・・7名</p> <p>－東京電力－ 横村所長・宮田原子力安全センター所長・須永副所長 一杉広報部長・山田広報部地域共生総括グループマネージャー・ 中林広報部地域共生総括グループ・徳増広報部地域共生総括グループ</p> <p>－事務局－ 柏崎原子力広報センター 石黒</p>
概 要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子力発電所の仕組み及び安全対策等の説明。</li> <li>・構内の緊急安全対策車両や防潮堤、防潮壁等の対策現場を見学。</li> <li>・6号機のフィルタベントや建屋内中央操作室ギャラリー等を見学。</li> </ul>

## 見学風景



## 意見・感想

〈委員〉

新規制基準に対する対策はもちろんのこと、自主的に各種安全対策が着々と検討・実施されている様に見受けられた。

電源確保および冷却手段について、引き続き、多重的に検討・実施をして、さらなる安全・安心に向けて邁進して頂きたい。

〈委員〉

柏崎刈羽原子力発電所の見学は機会ある度に参加している。

6月にもプラント内部を見学したが、今回の見学では中央制御室の脇に放射線を防ぐ鉛のカーテンと室内の気圧を高くして内部への空気の浸入を防ぎ運転員の安全を確保する設備が施工済みだった。

見学のたびに安全対策が講じられていることは評価できる。

プラント内部の見学はテロ対策などで簡単にできないことは理解できるがより多くの住民に実施済みの安全対策を広報する方法を考えてほしい。

何重にも講じられた安全対策も最後の判断は人である、より多くの訓練で安全を確保できるよう望む。

〈委員〉

初めにプロジェクターでの、柏崎刈羽原子力発電所のあゆみ、福島第一原子力発電所の事故状況及び事故の教訓、柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の説明がありました。

その後バスで特に福島教訓を踏まえての屋外の施設、そして建屋内を視察させて頂きました。

展望台では雷から施設を守る大きな避雷針の塔が3ヶ所ある事を説明受けました。日頃大湊側にある赤い塔だけ見ていた私は納得いたしました。

電源喪失時の対策の一つとして海拔45メートルの貯水池から自然落下させて原子炉を冷却する池を見せてもらいなるほど良いことだと思いました。また電源車、ガスタービン発電車等から電気を送り込む時の配線ボックスが張り巡らせてありましたが地面より約20センチ位上げてありました。自分勝手の解釈ですが地震対策かな？と思いました。

次に防潮堤の大きさを実感させて頂きました。万一水が入っても防潮壁、防潮板で原子炉建屋に入らないようにしてあるとの説明と車中ではありましたが実際この目で見させてもらい強度の心配はありますがまずは安心致しました。

次にフィルタベント施設では原子炉建屋との繋ぎ目は収縮継手を使って揺れを防ぐ事など説明がありました。私はフィルターと言うので目詰まりの心配をしていましたが水の中を通すだけなので水位の調整はあるが目詰まりの心配はないと言われて納得致しました。ベント施設の感想としては建屋の外部に原子炉との配管がされていましたが地震で揺れても良いようにもっと建屋からの抑えを多くした方が良いのではないかと思います。(設計により考えがあって少ないのかもしれませんが)

建屋内では今発電はもちろん稼働していないが燃料は使用済みプール、原子炉圧力容器内に入っている事と長く使用しないと冷やす力はそれほど多くいらぬ事を説明受けました。また操作室の皆様が万が一の時も被ばくしないように一時避難場所として今見学しているこの場所をガラス窓のこちら側

を鉛のカーテンで仕切り室内の気圧を上げ使いますと説明がありました。良い事だと思いました。約4センチ位の鉛のカーテンに触れて来ました。

全体を視察して福島事故の教訓をしっかりと柏崎刈羽原子力発電所に反映している姿が伺えました。その分複雑な安全対策のシステムになると思いますが所員の皆様自ら訓練をされていると聞き大変でしょうが頑張ってください。

未曾有の、また想定外の事が起きないようにと思いながら帰って来ました。有難う御座いました。

〈委員〉

以前、子どもが幼い頃、写生大会・歌のコンサート（井上あずみさん）・魚釣りなどで一般開放され幾度も訪れました。当時は、日本庭園もありのどかな構内だったように思い出されます。現在、15mの防潮堤ができ、多数の消防車と電源車が配備され、巨大な貯水池、そして木々を伐採し防火帯が施工され、『安全』を最優先する緊張感漂う構内へと変貌していました。

〈安全とは終わりなき対策だ〉と地域の説明会でお話になっていたとおり、様々な方向から、かつ多重に安全対策に取り組んでいる姿を見ることができました。そして、その姿を1人でも多くの方に、また過去に見学された方は何度でも耳を傾け、目で見えて感じてほしいと願いました。安全対策は常に進化しています。

この度は、6号機の建屋内・中央操作室（窓越し）など、一般見学者とは異なり特別なコースも見学させていただきました。これも“地域の会”と“東京電力”の信頼関係があるからこそとお聞きいたしました。信頼関係が崩れぬようおごることなく励んでほしいと願います。

東京電力（株）・地域の会の皆さまのご尽力のおかげで貴重な機会をいただきました。深く感謝いたします。ありがとうございました。

〈委員〉

私は今年度より地域の会の会員になり、原子力発電所を今回生まれて初めて見学しました。

まず、発電所の入り口や建物内に入る際、何重もの厳重なチェックを行いましたが、これは安全面やテロ対策の為なのだと思うものの、これほど厳しく管理しないと危険な空間なのだということを強く感じました。そして、中に入ると信号や標識があり、整備された様々な種類の植物や池などがあり、一つの大きな町のように驚きました。展望台からは、巨大な発電所の建物と日本海と米山が一望でき、「以前は砂浜で、昔はここで遊んだものだ」とご年配の方が懐かしむように話されていましたが、美しい風景の中に威圧感のある大きな建物が並ぶ異様な光景に、見ていて複雑な気持ちになりました。6・7号機では、稼働していない現在も新しい燃料が入っていること、使用済み燃料プールは、93%も埋まっていると伺いました。日本はおろか、世界中で処理の方法が確立されていない核のゴミ。この現状を考えただけでも、我が子や未来の子どもたちに、多くの危険なゴミを残して、申し訳ない気持ちになりました。私が小学生の時に発電所が出来ることになり、当時の学校の先生に、『原子力発電は、危なく恐ろしいもの』という風に教わったことを思い出し、また、3・11の福島を経験した今、実際に見学して改めて、そのことを認識できる機会となりました。

こんなに威圧感のある危険と隣り合わせの建物内で、日々事故が無いように作業されている方々には、頭の下がる思いでいっぱいです。社会情勢が不

安定な今、テロや不意の事故や天災などにも備えるような様々な対策を、今後もよろしく願いいたします。貴重な時間を、ありがとうございました。

〈委員〉

東電見学に参加して

福島第一原子力発電所の事故の教訓の一つに、すべての電源を失った場合の電源復旧や原子炉等への注水、冷却のための手段が不十分だったといわれています。

今回の見学に非常時での注水、冷却の設備を見ることができました。原子所と使用済燃料プールへの注水手段として、消防車42台、代替海水熱交換器車7台、原子炉などを冷やすための水は2万トンの貯水池を作り、災害時の注水と冷却手段を準備し、他にも色々な安全対策を立てているとの事。

安全対策には終わりがなく、これからもいろいろな設備が追加されると思うが、これだけ多額の費用をかけて、我々が安く使える電気料金になるのか心配である。